

## 平成31年度大学院説明会 (入学希望者向けガイダンス)



2018年6月9日(土)15:00-17:30

東京大学大学院医学系研究科  
公共健康医学専攻  
専攻長 川上憲人  
kawakami@m.u-tokyo.ac.jp

1

## 公衆衛生学とは

- “Public Health is the art and science of preventing disease, prolonging life and promoting physical and mental efficiency through the organized community efforts...” (組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、生命を延長し、身体的、精神的機能の増進をはかる科学であり技術である) Winslow CEA *Science* 1920; 51(1306): 23-33.

2



“Protecting Health, Saving Lives, Millions at a Time” (健康を守り、命を救おう、たくさんの人を一度に)

米国Johns Hopkins公衆衛生大学院のホールのパネル

3

## 公共健康医学専攻の目的

本専攻は、国民や地域住民、患者も含めた広範な人々の健康の維持、増進、回復及び生活の質(quality of life)の改善に寄与する最先端の研究を推進するとともに、公衆衛生領域で指導的及び実践的役割を果たす高度専門職業人を養成する。本課程の修了者には、公衆衛生学修士(専門職)が授与される。

4

## 求める学生像

- 国民や地域住民、患者も含めた広範な人々の健康の維持、増進、回復及び生活の質(quality of life)の改善に寄与する最先端研究を推進するとともに、公衆衛生領域で指導的及び実践的役割を果たす高度専門職業人として活躍できる人

研究・理論 × 実践力

5

## 公共健康医学専攻の特徴(歴史)

- ◆ 当該分野における東京大学の「強み」
- ◆ 日本最初の公衆衛生学講座  
1947(昭和22)年設置
- ◆ 日本最初の保健学の大学院  
1965(昭和40)年開設
- ◆ 大学院重点化  
1995(平成7)年 社会医学専攻  
1996(平成8)年 健康科学・看護学専攻
- ◆ 公衆衛生の専門職大学院(公衆衛生大学院)  
2007(平成19)年 設置

6

## 教員組織の特徴

- ◆ 専任教員(現員)28人(実務家教員6人を含む)
- ◆ 疫学保健学系  
数量的分析、コミュニケーション手法
- ◆ 行動社会医学系  
行動科学、社会科学的方法論
- ◆ 医療科学系  
制度、システム、情報の応用
- ◆ 協力講座

私達の方針: 教員が1つと  
なって学生の教育に係わる

7

## 公共健康医学専攻 (School of Public Health)

(専門職学位課程)  
公共健康医学専攻

### 疫学保健学講座 (Epidemiology and Health Sciences)

生物統計学 (Biostatistics)  
社会予防疫学 (Social and Preventive Epidemiology)  
臨床疫学・経済学 (Health Economics and Epidemiology Research)  
医療コミュニケーション学 (Health Communication)  
がん疫学 Cancer Epidemiology

### 行動社会医学講座 (Behavioral Health Sciences)

精神保健学 (Mental Health)  
健康教育・社会学 (Health Sociology and Health Education)  
保健社会行動学 (Health and Social Behavior)  
健康増進科学 (Health Promotion Science)  
医療倫理学 (Biomedical Ethics)  
保健医療人材育成学 Human Resource Development for Health

### 医療科学講座 (Health Services Sciences)

健康医療政策学 (Health Policy)  
医療情報システム学 (Healthcare Informatics)  
臨床情報工学 (Clinical Information Engineering)  
法医学・医事法学 (Forensic Medicine and Medical Law)  
保健医療科学 (Public Health Science)  
国際環境保健学 (Global Environmental Health)

(協力講座) 疾患生命工学センター・健康環境医工学  
(協力講座) 東大病院実付講座・医療安全管理学

8

## 東京大学医学部教育研究棟 (同棟13階にSPH講義室・学生控え室)



9

## 公共健康医学専攻の特徴(カリキュラム)

- ◆ 2年コースと1年コース(定員計30人)  
実務経験者向けの1年コース
- ◆ 多様な科目  
必修科目と選択科目の組合せ
- ◆ コースワーク・フィールドワークの重視  
講義・演習・実習の組合せ
- ◆ 課題研究(2年コース必修)  
教員による実務・研究指導

10

## 公共健康医学専攻の授業科目

- ◆ 必修科目
  - 疫学 「疫学研究と実践」が「医学研究のデザイン」
  - 統計 「医学データの統計解析」
  - 行動・社会科学 5教科から2科目選択
  - 医療管理 2教科から選択
  - 環境保健 2教科から選択
- 上記6科目(計11単位)を指定
- 課題研究(2年コースは必須)

11

## 公共健康医学専攻の授業科目

- ◆ 選択科目(必修科目を含め30単位取得)
  - 臨床疫学、臨床医学概論
  - 日本の医療と地域保健(英語)
  - 社会と健康 I・II
  - 合併科目: 国際保健政策学特論 I・II (英語)
  - インターンシップ(夏、春)
- など、多様な授業科目を用意(※1年間の単位取得上限50単位)
- 他専攻・他研究科の科目は合計で8単位まで

12

## 2018(平成30)年度スケジュール

- ◆ 4月 入学オリエンテーション、S1授業開始
- ◆ (6月9日大学院説明会、博士課程含む)
- ◆ 6～7月 研究室配属説明会、配属先決定
- ◆ (8月20, 23日大学院入試、筆記試験・口述試験)
- ◆ 8～9月 夏季休業期間(集中授業等)
- ◆ 9月 A1授業開始
- ◆ (10月 日本公衆衛生学会ブース出展)
- ◆ 12月 課題研究論文提出締切、プレゼンテーション講習会
- ◆ 1月 課題研究発表会
- ◆ 1-2月 キャリアデザイン懇談会
- ◆ 2月 A2授業終了
- ◆ 3月 SPHフォーラム、学位授与式

13

## 平成30年度公共健康医学専攻・授業予定表

| S1   | S2   | 夏季休業  | A1   | A2                             | W                  |
|--|--|---|--|--------------------------------|--------------------|
| 4/5～6/2  | 6/5～7/31   | 8/1～9/20  | 9/25～11/17   | 11/20～1/26                     | 1/29～              |
| 健康危機管理学<br>法医学・医事法学<br>公共健康医学特論<br>保健医療人材育成学<br>医療コミュニケーション学<br>保健医療経済学<br>医療安全管理学<br>臨床医学概論<br>医学データの統計解析<br>医療倫理学 I<br>医療情報システム学 | Health Care and Community Health in Japan<br>医学研究のデザイン<br>臨床疫学<br>医療コミュニケーション学<br>医療情報システム学<br>医療情報システム学実習<br>医学統計学演習<br>医療倫理学 II<br>公共健康情報学 | インターンシップ、課題研究など<br>(集中講義) 予防保健の実践と評価<br>保健行政・健康危機管理学実習<br>医療安全管理学実習 | 環境健康医学<br>がん疫学<br>学習者評価学<br>産業保健の理論と実践<br>医学研究とODISC標準<br>社会と健康 I<br>健康社会学<br>公共健康情報学実習<br>科学技術コミュニケーション | 医療技術評価学演習<br>健康教育学<br>社会と健康 II | インターンシップ<br>課題研究など |
| 法医学・医事法学<br>精神保健学 I<br>疫学研究と実践   |  |   | 健康医療政策学<br>精神保健学 II<br>臨床疫学・経済学演習  |                                |                    |

この他、他専攻との合併科目として、社会保障政策学、国際保健政策学 I, II.

14

## 課題研究(2年コース必修)

- ◆ 研究内容による分類(学生の自己申告)
- ◆ 区分: 原著、公衆衛生活動報告、システム開発、文献レビュー、その他
- ◆ 評価基準(以下の基準を総合して評価)
  1. テーマの新規性・独創性・実用性・有用性
  2. 論理的(科学的)な思考能力
  3. 方法(アプローチ)の妥当性
  4. 結論のimplication・テーマの発展性
  5. プレゼンテーション・質疑応答能力
  6. 本人の貢献度
  7. 文章・図表の完成度

15

## 課題研究のテーマの実例(2017年度)

- 日本人女性における発酵および非発酵大豆食品摂取と乳がん罹患との関連: 大規模コホート研究を用いた検討
- 民間企業の組織公正性と女性労働者の抑うつおよびストレス関連行動
- DPCデータを用いた小児MRI撮像時の鎮静と合併症に関する記述的研究
- 初めてピアスタッフを雇用する精神医療福祉施設で働く専門職スタッフは、ピアスタッフ雇用が決まってからのどのような体験をするのか: 質的研究
- Brain-Computer Interface (BCI) に関する倫理的論点とその考察: 体系的な文献レビューに基づいて
- 色覚異常に関する体験型学習アプリケーションの開発

16

## 海外公衆衛生大学院との交流

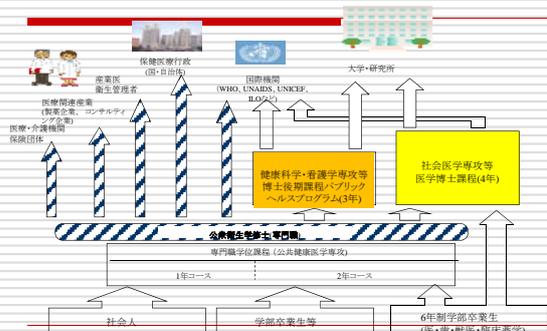
- ◆ ソウル大学
  - ◆ 北京大学
  - ◆ ハーバード大学
  - ◆ ハワイ大学
  - ◆ 国立台湾大学、台北医科大学
  - ◆ ユニバーシティカレッジロンドン
  - ◆ ロンドン大学衛生熱帯医学大学院
- 国際共同研究: 12カ国、25のプロジェクト



PeSeTo公衆衛生大学院  
会議・シンポジウム  
(2008, 2009, 2011,  
2013, 2014, 2016年)

17

## 修了後の進路



## 修了者の進路

高度専門職業人として

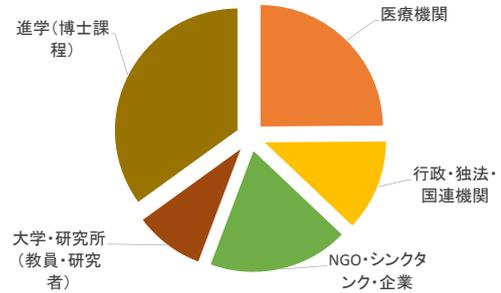
- ◆ 公衆衛生行政、国際機関など
- ◆ 臨床研究・EBM、臨床試験の専門家
- ◆ 民間シンクタンク、NGO等の専門家
- ◆ 病院の医療経営・情報システムの専門家

研究者として

- ◆ 博士課程進学、教育研究機関など

19

## 修了時の進路(%)

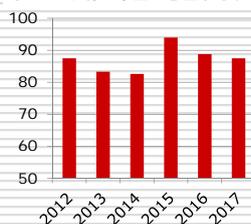


2007-2016年度修了生

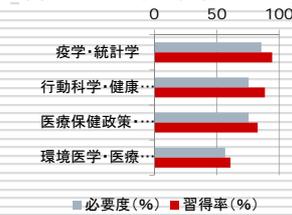
20

## 修了生による教育の評価

高い修了時満足度:もう一度、入学前の状態に戻り、大学院に進学するとしたら第1希望で志望する(%)



修了後の専門知識の必要度と習得率(2015年全修了生調査への96名の回答)



知識の習得だけでなく、「知識を使う」公衆衛生コンピテンシーの教育へ向けて教育課程を見直しています

## 東京大学公共健康医学専攻のHP (専攻HP) (同窓会HP)



## 入試試験科目の変更について(平成30年度入試から)

- 「健康科学・社会医学一般」を廃して、「公共健康医学基礎」を新設。公衆衛生学についての基礎的な問題(択一式20問)を出題。
- 「専門分野」(論述問題)から選択4問を回答。
- 「小論文」を1, 2年コース志望者いずれも必須に。
- 「統計学一般」変更なし
- 以上は専攻HPでも周知。

23

## 公共健康医学専攻と関連した博士課程

<http://www.m.u-tokyo.ac.jp/daigakuin/apply/appguidemain.html>



願書受付: 平成31年1月4~9日

入学試験: 平成31年1月30日、2月4日

願書受付: 平成30年7月18~27日

入学試験: 平成30年10月18~19日

24

## 健康科学・看護学専攻(博士後期課程) パブリックヘルスプログラムとは

- 健康科学・看護学専攻(博士後期課程)において、公衆衛生関連領域の教育・研究に関連の深い健康科学講座が1つになり、**パブリックヘルスプログラム**を立ち上げた。
- 公衆衛生に関する教育研究を、修士課程(専門職)から博士後期課程までシームレスに行うことを目的とする。

25

## パブリックヘルスプログラムへの 入学が想定される者

- 公衆衛生学修士課程修了者
  - 本学医学系研究科公共健康医学専攻(専門職学位課程)
  - 他学公衆衛生大学院専門職修士・修士課程修了者
- その他の修士課程修了者
  - 本学、他学を問わず
- 修士号取得済みの社会人経験者

26

## 健康科学・看護学専攻(博士後期課程) パブリックヘルスプログラムの組織



## パブリックヘルスプログラム各分野の概要(1)

| 分野名          | 教員           | 研究内容   |
|--------------|--------------|--|
| 社会予防疫学       | 佐々木敏教授       | 栄養疫学、公衆栄養学、社会予防疫学  |
| 保健医療情報学      | 大江和彦教授       | 医学知識ベース、病院情報システム、電子カルテ   |
| 医療コミュニケーション学 | 木内貴弘教授       | ヘルスコミュニケーション、メディアコミュニケーション   |
| 医療倫理学        | 赤林 朗<br>瀧本禎之 | 生命・医療倫理学全般(様々な人文・社会科学的方法論を用いる)、臨床倫理、研究倫理、看護倫理、保健・医療行政、保健・医療経済<br>医療倫理学、臨床倫理、臨床倫理コンサルテーション、意思決定プロセス |
| 健康増進科学       | —            | (募集なし)   |

## パブリックヘルスプログラム各分野の概要(2)

| 分野名           | 教員                   | 研究内容  |
|---------------|----------------------|---|
| 健康学習・教育学      | 橋本英樹教授               | 社会・経済・文化的要因と健康との関連に関する社会行動学的研究を広く含む                               |
| 健康社会学         | 近藤尚己准教授              | 健康の社会的決定要因に関する疫学研究  |
| 精神保健学         | 川上憲人教授<br>西 大輔准教授    | 地域における精神障害の疫学、職場のメンタルヘルス、災害・国際精神保健うつ病・PTSDの予防、栄養精神医学、レジリエンス、外傷後成長 |
| 生物統計学         | 松山 裕教授               | 生物統計学、医学研究の計画と医学データ解析、臨床試験の方法                                     |
| 疫学・予防保健学      | 松山 裕教授(兼)<br>大庭幸治准教授 | 疫学、疫学研究の計画と解析、理論疫学疫学、疫学研究の計画と解析、メタ・アナリシス                          |
| 精神保健政策学(連携講座) | 金吉晴連携教授              | 心理的トラウマ、災害精神保健、疫学、バイオマーカー、支援制度、政策、治療                              |

## パブリックヘルスプログラム 博士(保健学)取得修了後の進路

- 選択する分野によって異なる。
  - 多くは、大学(教員、研究員)
  - 国公立研究所、民間研究機関
  - 医療機関
  - 国際機関(国連、世銀)
  - 民間企業(製薬企業、シンクタンク)
  - NPO/NGO